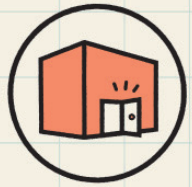




# アートを介してコミュニティを育むプロジェクト



東京都美術館 × 東京藝術大学

## とびらプロジェクト

### 「とびらプロジェクト」ってなに？

「とびらプロジェクト」とは、東京都美術館と東京藝術大学が連携して行なっているアートを介してコミュニティを育む事業です。毎年広く一般からアート・コミュニケータ（愛称：とびラー）を募集しています。とびラーは、学芸員や大学の教員、そして第一線で活躍中の専門家を中心としたプロジェクトチームと共に美術館を拠点に活動しています。人と作品、人と人、人と場所をつなぎ、美術館に集まる多種多様な人びとのコミュニケーションを大切に、そこから生まれる新しい価値を社会に届けていきます。



こんな活動をしています。

「アート・コミュニケータ」を「とびラー」とよびます。

募集人数40名

とびラーは広く一般から募集しています。  
(募集は毎年2月)

#### 応募条件

- 18歳以上の方(高校生を除く)、日本語で日常会話ができる方
- 美術または美術館に関心があり、積極的に学び、活動意欲のある方
- 東京都美術館のミッション(使命)を理解し、共感して活動できる方
- 4月～6月の基礎講座全6回に原則として全て参加可能な方
- 7月以降、月2回以上の活動に参加可能な方
- Eメールでの連絡が可能な方  
(パソコンでのメール送受信が可能な方)

#### 活動条件

- アート・コミュニケータの活動は無償です。交通費、謝礼等の支給はありません。ただし、講座及び随時開催される研修に無料で参加できます。
- アート・コミュニケータの登録期間は1年間とします。次年度以降は本人と美術館双方の合意のうえで登録更新し、最長3年任期とします。
- とびらプロジェクトのウェブサイト等を読んだり、Eメールでの連絡ができること。



### 「とびらプロジェクト」の1年間



### 東京都美術館のミッション

東京都美術館は「アートへの入口」となることを目指します。展覧会を鑑賞する、子供たちが訪れる、芸術家の卵が初めて出品する、障害のある人も何のためらいもなく来館できる美術館となります。訪れた人が、新しい価値観に触れ、自己を見つめ、世界との絆が深まる「創造と共生の場＝アート・コミュニティ」を築き、「生きる糧としてのアート」に出会える場とします。これらを実現することで、東京都美術館が人びとの「心のゆたかさの拠り所」となるようにします。

### 東京藝術大学からのメッセージ

アートを介したコミュニティづくりは、作品を創造する人、そしてそれを享受する人を含め、人びとのクリエイティブな力が生きる社会をつくることにつながります。東京藝術大学は、芸術の基本である「もの」としての作品に加えて、「こと」としての芸術に取組み、市民が芸術に親しむ機会 of 創出に努め、芸術をもって社会に貢献します。



# 学ぶコト 実践するコト

とびラーは「基礎講座」と「実践講座」を通して、東京都美術館のミッションと東京藝術大学からのメッセージを共有し、とびラーとしての役割の理解を深めていきます。そして、活動の仕上げには、任期終了後の活動について考え実践する「これからゼミ」を開くことができます。学ぶコトと現場で実践するコトのサイクルがあることで、美術館を拠点とした活動がさらに充実したものになっていきます。

1

//////// はじめは「基礎講座」(4月~6月:全6回24時間) //////////

「基礎講座」は、新しいコミュニティづくりの基本を学ぶ講座です。1年目のとびラーは全員必ず参加します。美術館での活動とはどのようなものか？対話やクリエイティブなコミュニケーションが起こる場づくりとは？など、とびラーの活動を支える基礎的な物事の考え方を参加形式で学んでいきます。



さらに広がる活動の舞台



東京藝術大学 大学美術館

museum start

あいうえの

「とびらプロジェクト」は「Museum Start あいうえの」と運動することで、さらに活動の舞台が広がりました。「Museum Start あいうえの」とは、東京都美術館と東京藝術

大学が推進役となり、上野公園に集まる複数の文化施設が連携して行なうラーニング・デザイン・プロジェクトです。こどもたちの「ミュージアム・デビュー」を応援し、こどもと大人がフラットに学び合える環境を創造することを目的としています。とびラーは各種プログラムのファシリテーターやサポートを担当します。

Museum Start あいうえの [検索 http://museum-start.jp](http://museum-start.jp)

主催/東京都、東京都美術館、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、東京藝術大学  
共催/上野の森美術館、恩賜上野動物園、国立科学博物館、国立国会図書館国際子ども図書館、国立西洋美術館、東京国立博物館、東京文化会館(五十音順)

2

//////// 次に「実践講座」(6月中旬より) //////////

「実践講座」では、「鑑賞実践講座」「アクセス実践講座」「建築実践講座」といった、美術館で起こる実践的な場面を想定して設けられた3つのコースの中から1つ以上を選択し受講できます。各講座は専門の外部講師や学芸員、大学の教員が担当し、実践の現場で気付いた疑問などもふりかえりながら進められていきます。

3

仕上げは  
「これからゼミ」

「これからゼミ」は、とびらプロジェクトを離れた後、どの様に活動していくのかについて考え、実践します。例えば、ゲスト講師を招いた勉強会の開催や、ワークショップの実践など、各自が自分たちのレベルアップに必要な講座を自らデザインし、取り組むことができます。「アート・コミュニケータ」としての総仕上げの場です。

Program  
1

## 鑑賞実践講座(モノと人を考える)

対話を通して作品を楽しみ、鑑賞を深める活動について学びます。鑑賞者が自由な発想で、主体的に鑑賞できる機会をつくるにはどうしたらよいかについて考えます。

 例えば、ココで活かされます!

「スペシャル・マンデー・コース」  
展示会の休室日を利用して、クラス単位で美術館に訪れるこどもたちの鑑賞の伴走役として活動します。



Program  
2

## アクセス実践講座(ヒトと人を考える)

障害のある無しに関わらず、人びとが美術館にアクセスし易い環境について考えます。障害のある人も何のためらいもなく来館できる美術館を目指して、さまざまな対応や状況への理解を深めます。

 例えば、ココで活かされます!

「放課後のミュージアム」(障害のあるこどもを含む)  
上野公園に集まる9つの文化施設がこどもたちの放課後の居場所になります。障害の有る無しに関わらず参加できるプログラムです。とびラーは、こどもたちと一緒にミュージアムの冒険へと出かけます。



国立西洋美術館常設展示室

 例えば、ココで活かされます!

「障害のある方のための特別鑑賞会」  
障害のある方のための、休室日を利用した特別鑑賞会です。とびラーは会場の運営や鑑賞のサポートを行なっています。



Program  
3

## 建築実践講座(ハコと人を考える)

東京都美術館の歴史的なエピソード、マメ知識を織り交せながら、美術館の空間を楽しむための基礎知識を学びます。また、東京都美術館以外の建築物の見学会なども行い、より広い視野で建築の魅力を探ります。

 例えば、ココで活かされます!

### 「建築ツアー」

とびラーは東京都美術館の建築物としての魅力を伝えるツアー・ガイドとして活動します。コースは全てとびラーのオリジナルです。



# つどうコト はぐくむコト

## 「とびラボ」を開こう！

「この指とまれ式」と「そこにいる人が全て式」から新しい活動が生まれます。

「とびラボ」とは、とびラー同士が自発的に開催するミーティングであり、新しいプロジェクトの検討と発信が行なわれる場です。様々なバックグラウンドを持ったとびラーによる「この指とまれ式」と「そこにいる人が全て式」でオリジナルの活動が生まれ、アートを介したコミュニケーションの可能性が大きく広がっています。また、「とびラボ」はとびラー同士のゆるやかなコミュニケーションの場でもあり、対話から生まれる充実した時間が、美術館に新しい価値を注ぎ込んでいます。



1st  
STEP

### 「とびラボ」を開くときは「この指とまれ式」

とびラーは、新しい活動のアイデアがひらめいたら「この指とまれ！」で他のとびラーを集めてチームをつくります。はじまる時には3人以上からスタートします。



3rd  
STEP

### 解散！また結成

活動の目的を達成して、成果をとびラー自身でしっかりふりかえることができたから、その「とびラボ」は解散します。そして、また新しいアイデアが生まれた時には「この指とまれ！」でもう一度仲間を募ります。チームの結成と解散をくり返すことで、常にフレッシュな対話の構造をつくります。

2nd  
STEP

### 活動するときは 「そこにいる人が全て式」

集まったとびラーたちが自由に「とびラボ」を開きます。そこにいるとびラー全員でできることを考えることで、はじめのアイデアに他のとびラーのアイデアが重なって、新しいアイデアが生まれ、学芸員や大学教員らと相談しながら、とびラーオリジナルの活動が実施されていきます。



例えばこんな活動が生まれました！

1

### 楽園への手紙

障害のある方の作品を展示した「楽園としての芸術」展で実施された活動。来館者が作品の感想を手紙にしたため、とびラーが作家へ届けます。とびラーのアイデアで、より来館者と作家がつながることができました。



2

### トピカンみどころマップ

東京都美術館は建築家・前川國男の設計です。その東京都美術館の見所をとびラーが調査・編集し、マップを制作。館内で配布しています。



3

### とびらボードでGO!

お絵描きができる磁気式のボードを使い、こどもたちが展示室の中の作品をモチーフに絵を描きます。最後はめりえもできるポストカードにしてプレゼント。



5

### 特別鑑賞会でiPad

「障害のある方のための特別鑑賞会」では、とびラーがiPadに作品画像をインストールして、車椅子で来館された方、弱視の方など、もつと作品に近寄って鑑賞したいと思う方のサポートをしています。



6

### イロイロとび缶バッジ

展示会の要素を取り入れた缶バッジを来館者と共につくります。展示されている作品にもっと興味をもってもらい、来館した日のことを覚えていて欲しい、そんな願いが込められた活動です。



7

### ヨリミチ ビジュツカン

学校の帰り、会社の帰り、ぶらっとヨリミチ気分美術館へ行きたい。だけど、ひとりぼっちで鑑賞するのはちょっと淋しい。そんな方にお勧めの企画です。美術館で知り合った誰かと、一緒に作品を鑑賞し、お茶をしながら感想を話す、そんなひと時をとびラーがつくれます。



8

### 藝大卒展さんば

東京藝術大学の卒業・修了作品展の会期中に、藝大生と気軽に話をしながら作品を巡ります。藝大生から作品のコンセプトや、制作中の苦労話などが聞ける、一期一会の散歩コースです。

